

Title	23 : 東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科における平成28年度入院患者の臨床統計
Author(s)	杉浦, 貴則; 栗原, 絹枝; 河地, 誉; 齋藤, 寛一; 三條, 祐介; 酒井, 克彦; 澁井, 武夫; 佐藤, 一道; 野村, 武史
Journal	歯科学報, 117(5): 421-421
URL	http://hdl.handle.net/10130/4377
Right	
Description	

No.23：東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科における平成28年度入院患者の臨床統計

杉浦貴則¹⁾，栗原絹枝¹⁾，河地 誉¹⁾，齋藤寛一²⁾，三條祐介¹⁾，酒井克彦¹⁾，澁井武夫¹⁾，
佐藤一道¹⁾，野村武史¹⁾（東歯大・オーラルメディスン口外¹⁾）（東歯大・口腔がんセンター²⁾）

目的：東京歯科大学市川総合病院は千葉県東葛南部の中核病院であり，地域医療支援病院として地域連携を密に行っている。今回は，地域歯科医療のニーズに合った質の高い医療を提供するために，過去1年間に入院加療を要した患者動向を調査した。

方法：平成28年4月1日から平成29年3月31日までに東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科に入院加療を行った患者を対象とし，年齢，性別，受診経路，入院様式，麻酔様式，疾患別分類，基礎疾患，また基礎疾患への対応について調査した。

結果：入院患者総数は486人で，年齢分布は，全体の35%を65歳以上の高齢者が占めていた。入院患者のうち480例は手術症例で，麻酔様式は全身麻酔が273例，局所麻酔が207例であり，全身麻酔では高齢者が22%であったのに対し，局所麻酔では54%が多い傾向にあった。受診経路は歯科診療所が86%と最も多く，院内，医科診療所を合わせ，全体の93%が紹介患者であった。基礎疾患を持つ患者は全体の約7割で，紹介患者，非紹介患者共に高血圧症，循環器疾患，糖尿病が多く見られたが，紹介患者では心疾患，悪性腫瘍，喘息が次いで多いという特徴が見

られた。疾患別分類では，紹介患者は歯の疾患184例（41%），嚢胞性疾患71例（16%），炎症性疾患49例（11%），外傷42例（9%）の順に多くみられたが，非紹介患者では外傷12例（37%），歯の疾患5例（15%），炎症性疾患4例（12%），口腔粘膜疾患3例（9%）と異なる特徴がみられた。入院様式は，予定入院419例（86%），緊急入院67例（14%）であった。基礎疾患を有する予定入院の患者は282例（67%）で，198例に全身管理目的に対診を行い，かかりつけ医のものが118例，院内連携が74例であった。基礎疾患を有する緊急入院の患者は42例（63%）で，24例に対診を行い，うち23例が院内連携であった。緊急入院患者の基礎疾患への対応として，67%が入院当日に院内連携で対応しており，対診までの平均日数は0.33日であった。

考察：当科における入院患者の1/3は高齢者であり，地域診療所からの紹介が多く，基礎疾患を有していた。今後超高齢社会にすすむにつれ，高齢者や基礎疾患を有する患者に対し，円滑な医科歯科連携を図り迅速に対応していくことが重要になると考えられた。